

くまもと

さんぽ



みーも

地図

『くまもとさんぽ』をご覧ください、ありがとうございます。

下のリンクをクリックすると、印のついたGoogleマップが開きます。

[『それぞれの場所をGoogleマップで確認する』](#)

リデル、ライト両女史記念館

[熊本県熊本市中央区黒髪（くろかみ）]



「ハンセン病患者の母」とよばれるリデル（ロンドン生まれ・1855～1932年）と、リデルの姪であるライト（ロンドン生まれ・1870～1950年）は、ハンセン病患者の救済に尽力し、ハンセン病の歴史に大きな影響を与えました。



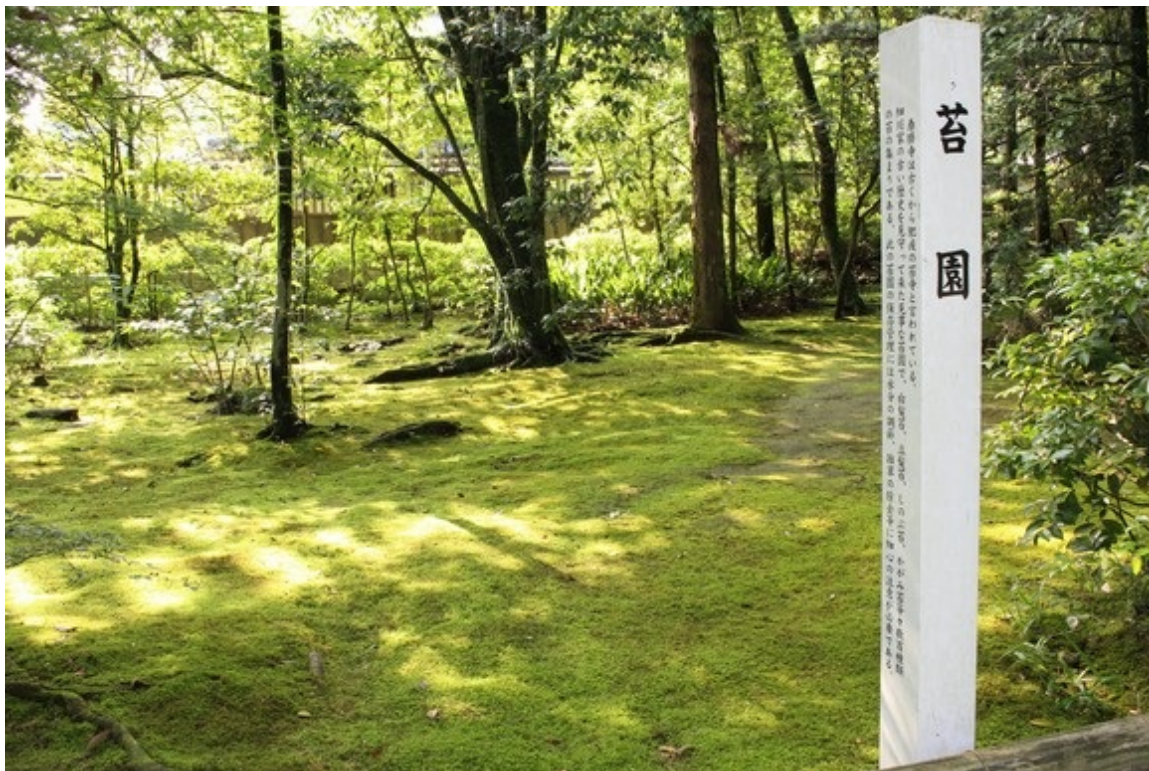
記念館には、リデルとライトの使用品などが展示されています。

泰勝寺跡（たいしょうじあと）

[熊本県熊本市中央区黒髪]



熊本藩細川（ほそかわ）家の菩提寺・泰勝寺は、1637（寛永14）年に建てられました。現在、泰勝寺跡は「立田自然公園」として活用されています。



「苔園（こけえん）」です。
泰勝寺は古くから「肥後（ひご）の苔寺」とよばれていたそうです。



階段をのぼり、門をくぐると、「四つ御廟（ごびょう）」があります。

細川家初代・細川藤孝（ふじたか）、藤孝の妻・沼田麿香（ぬまたじゃこう）、2代・細川忠興（ただおき）、忠興の妻・細川ガラシャの御廟です。



ガラシヤ愛用の手水鉢（ちょうずばち）です。大阪の玉造屋敷から移したものです。

ガラシヤは明智光秀の娘で、本名を「玉子（たまこ）」といいます。織田信長の仲立ちで忠興の妻となります。

しかし、光秀が「本能寺の変」を起こし、信長を打ち取ったため、「逆臣の娘」となった玉子は離別され、山中に幽閉されます。しばらくして、豊臣秀吉の許しで復縁しました。

1587（天正15）年に、玉子は洗礼を受け、「ガラシヤ」という洗礼名を授かります。

関ヶ原の戦い直前、徳川家康に従い出陣した夫の留守中に、ガラシヤを人質にしようと石田三成の軍勢が屋敷に押し寄せてきました。知らせを聞いたガラシヤは、手水鉢を水鏡として最後の身じまいをします。三成の軍勢に囲まれ、ガラシヤは仕えていた女性たちを避難させ、屋敷に火を放つ。屋敷は猛火につつまれ、ガラシヤは命を絶ちました。



園内を少し歩くと、美しい木々に囲まれてひっそりとたたずむ「仰松軒（こうしょうけん）」があります。

忠興の原図に基づき、1923（大正12）年に復元された茶室です。

五高記念館（ごこうきねんかん）

[熊本県熊本市中央区黒髪]



この赤レンガ造りの建物は、旧制第五高等学校（現在の熊本大学）の本館として1889（明治22）年に完成しました。

夏目漱石（なつめそうせき）や小泉八雲（こいずみやくも）をはじめとする多くの優れた教師が教鞭をとり、ここから池田勇人（いけだはやと）・佐藤栄作（さとうえいさく）の二人の総理大臣をはじめとする多くの人材を送り出しました。

現在は、五高記念館として一般公開されています。館内には、「五高の歴史展示室」や、五高当時の黒板・教卓・机・椅子を用いた「復原教室」などがあります。

熊本洋学校教師館ジェーンズ邸

[熊本県熊本市中央区水前寺公園（すいぜんじこうえん）]



熊本洋学校教師館ジェーンズ邸は、1871（明治4）年に建てられました。

熊本県内で最も古い洋風建築です。

ジェーンズ（アメリカ生まれ・1837～1909年）が、家族と一緒に住んだ邸宅です。



2階ベランダの出口には、色ガラスが付いています。この建物の2階で、博愛社（日本赤十字社の前身）設立の許可がおりたことから、日本赤十字社の発祥の地とよばれています。

妙解寺跡（みょうげじあと）

[熊本県熊本市中央区横手（よこて）]



熊本藩細川家の菩提寺・妙解寺は、1642（寛永19）年に建てられました。
現在、妙解寺跡は「北岡自然公園」として活用されています。



階段をのぼり、門をくぐると、「三霊廟（れいびょう）」があります。

中央が細川家3代・細川忠利（ただとし）、右が忠利の妻・千代姫（ちよひめ）、左が4代・細川光尚（みつなお）の霊廟です。



三霊廟のそばには、「阿部弥市右衛門（あべやいちえもん）の墓」があります。弥市右衛門は、作家・森鷗外（もりおうがい）の小説『阿部一族』のモデルとなった人物です。



忠利霊廟のそばには、忠利が可愛がっていた鶴の碑があります。

四時軒（しじけん）

[熊本県熊本市東区沼山津（ぬやまづ）]



幕末維新期の思想家として活躍した横井小楠（よこいしょうなん・1809～1869年）の旧居です。

この住まいからの眺めが四季を通じて素晴らしいことから、小楠は「四時軒」と名づけました。小楠を師と仰ぐ坂本龍馬が四時軒を3回訪ねています。



四時軒の客間です。この部屋で小楠と龍馬は、日本の行く末を語り合ったそうです。

船着場跡（ふなつきばあと）

[熊本県熊本市南区川尻（かわしり）]



江戸時代、年貢米の積出しや日用雑貨の荷揚げが行われていました。明治時代のときには、年間千を超える船が行き来していたそうです。

潮の干満や水量の増減に影響を受けないように長さ約150メートルにわたって14段の石段が積まれています。



船着場跡には、熊本県内で最も古い公衆トイレ跡があります。

外城蔵跡（とじょうぐらあと）

[熊本県熊本市南区川尻]



「二百坪蔵」



「六十坪蔵」

二百坪蔵と六十坪蔵の米蔵を外城蔵といいます。江戸時代、年貢米の収納倉庫として使われていました。浸水を防ぐため、床が高くなっています。また、風通しをよくするための通気窓がいくつも設けられています。

御船手渡し場跡（おふなてわたしばあと）

[熊本県熊本市南区川尻]



江戸時代、藩の重要な軍港として全国に名をはせており、水軍関係者や商人たちが行き来していました。



「御船手渡し場跡」と「船着場跡」をつなぐ散歩コースです。

六殿神社の楼門（ろくでんじんじゃのろうもん）

〔熊本県熊本市南区富合町（とみあいまち）木原（きわら）〕



1549（天文18）年に建てられた楼門です。釘を1本も使っていないことから、「釘無しの門」ともよばれています。建造物として熊本県で最初に国の重要文化財に指定されました。

霊巖洞（れいがんどう）

〔熊本県熊本市西区松尾町（まつおまち）平山（ひらやま）〕



霊巖洞に向かう途中、「五百羅漢（ごひゃくらかん）」があります。

熊本の商人・湊屋儀平（ふちだやぎへい）が、1779（安永8）年から1802（享和2）年にかけて奉納したといわれています。



五百羅漢のそばには、「延命地蔵尊」が安置されています。



霊巖洞です。霊巖洞は、剣豪・宮本武蔵（みやもとむさし）が『五輪書（ごりんのしょ）』を著した場所として知られています。

格子の奥に、岩戸観音（いわとかんのん）さまが安置されています。



霊巖洞の岩壁には、熊本藩細川家の家老・沢村大学助（さわむらだいがくのすけ）の逆修（ぎゃくしゅ）が刻まれています。



霊巖洞の近くには、「ココペリ」というカフェがあります。



おしゃれな雑貨が並ぶ古民家で、おいしい食事を楽しみながらゆっくりした時間を過ごすことができます。

花岡山仏舎利塔（はなおかやまぶっしやりとう）

[熊本県熊本市西区横手]



白亜のパゴダ様式の塔です。
仏舎利（お釈迦さまの遺骨）が納められています。



花岡山は、熊本市内を一望できる展望スポットの1つです。



「加藤清正腰掛石（こしかけいし）」



「加藤清正ゆかりの兜石（かぶといし）」

昔、花岡山は熊本城の石垣素材・安山岩（あんざんがん）が多く採れる場所として知られていました。

熊本城築城に際して、熊本藩加藤家初代藩主・加藤清正是、石垣素材の採掘・切出し作業の陣頭指揮にあたりました。

現在、仏舍利塔のそばには、作業休憩中に清正が腰掛けて身を休めた場所だったことから「腰掛石」とよばれる石と、兜を脱いで石に置き身を休めたことから「兜石」とよばれる石があります。

豊岡の眼鏡橋（とよおかのめがねばし）

[熊本県熊本市北区植木町（うえきまち）]



豊岡の眼鏡橋は、1802（享和2）年に完成しました。熊本県内で最も古い石橋です。1877（明治10）年におこった西南戦争で最大の激戦・田原坂の戦いの際、明治政府の官軍はこの橋を拠点にして、西郷隆盛率いる薩軍の陣に向かって出撃しました。



橋の周りには、豊かな田園の風景が広がっています。

田原坂公園（たばるざかこうえん）

[熊本県熊本市北区植木町豊岡]



西南戦争最大の激戦地として知られる田原坂。

1957（昭和32）年につくられた田原坂公園には、壮烈な戦いを今に伝える資料館や慰霊塔などがあります。



資料館には、四斤山砲（よんきんさんぽう）の複製、銃、軍装などが展示されています。



「慰霊塔」です。
芳名板には、西南戦争で亡くなった方々の名前が記されています。



「美少年の像」です。
西南戦争最大の激戦・田原坂の戦いで亡くなった若者たちすべての象徴です。

万田坑（まんだこう）

〔熊本県荒尾市（あらおし）原万田（はらまんだ）〕



「第二豎坑櫓（だいにたてこうやぐら）及び
第二豎坑巻揚機室（だいにたてこうまきあげきしつ）」



「安全燈室及び浴室」

万田坑は、石炭を採取するためにつくられた炭鉱施設です。

1902（明治35）年に開かれた万田坑は、国内最大規模の豎坑として日本の近代化を支えました。

轟水源（とどろきすいげん）

〔熊本県宇土市（うとし）宮庄町（みやのしょうまち）〕



江戸時代、宇土藩初代藩主・細川行孝（ゆきたか）が、轟水源から宇土城下まで総延長約4.8キロメートルの轟泉水道（ごうせんすいどう）を完成させました。今もなお生活用水として利用されており、現在使われている上水道としては日本最古のものです。



轟水源のほとりにある取水口（しゅすいこう）です。
ここから取り込まれた水が宇土の町まで流れていきます。



轟水源から少し歩くと、「宇土市大太鼓収蔵館」があります。
大太鼓を一堂に集めて保管・展示されています。



少し歩くと、「轟泉資料館」があります。
轟泉水道の資料や轟和紙づくりの道具が展示されています。

船場橋（せんばばし）

[熊本県宇土市]



江戸時代末期に完成した船場橋は、馬門石（まかどいし）とよばれるピンク色の阿蘇溶結凝灰岩（あそようけつぎょうかいがん）でつくられています。



船場川と船着場跡です。ここは昔、宇土の代表的な船着場として賑わっていたそうです。



船場橋のたもとは、馬門石を加工してつくられた共同井戸があります。轟泉水道の最末端です。



井戸のそばには、「せんばのお地蔵さん」が安置されています。宇土市では、毎年8月23日・24日に「うと地蔵まつり」が行われます。子どもたちによって飾り立てられた各町内のお地蔵さんが、あちこちでおひろめされます。

三角西港（みすみにしこう）

[熊本県宇城市（うきし）三角町（みすみまち）三角浦（みすみうら）]



1887（明治20）年に開港した三角西港は、明治三大築港の1つとして知られています。オランダ人技師ムルドルの設計によってつくられた港です。



約750メートルにおよぶ「石積ふ頭」です。丸みを帯びた石が特徴的です。今もなお当時の姿のまま残されています。



「旧高田回漕店（きゅうたかだかいそうてん）」です。
明治20年代に建てられたといわれています。荷物や乗客を扱っていた回船問屋です。



「ムルドルハウス」です。
館内では、宇城や天草（あまくさ）の特産品や地元の伝統工芸品などが展示販売されています。

浦島屋（うらしまや）

[熊本県宇城市三角町三角浦]



作家・小泉八雲の紀行文『夏の日』に登場する「浦島屋」です。
明治時代の洋風旅館として賑わっていましたが、しばらくして解体されました。
1993（平成5）年に復元され、現在はカフェとして活用されています。



浦島屋の2階には、テラス席があります。

和蘭館（おらんだかん）

[熊本県宇城市三角町三角浦]



土蔵造りの建物です。
明治時代、三角西港の倉庫として使われていました。
現在はカフェレストランとして活用されています。



海側にテラス席が設けられており、綺麗な海や夕陽を眺めながら食事を楽しむことができます。

法の館（ほうのやかた）

[熊本県宇城市三角町三角浦]



1890（明治23）年に、裁判所として開庁されました。



現在は「子供法廷室」や「法の歴史展示室」などがあり、法との関わりを考える施設として活用されています。

甲佐神社（こうさじんじゃ）

[熊本県上益城郡（かみましきぐん）甲佐町（こうさまち）上揚（かみあげ）]



古くから熊本の守り神として人々の信仰を集める甲佐神社。



甲佐神社は、「蒙古襲来絵詞（もうこしゅうらいえことば）」が奉納された場所として知られています。

鎌倉幕府の御家人・竹崎季長（すえなが）によって奉納された「蒙古襲来絵詞」には、元寇（げんこう）における季長の奮戦が描かれています。

現在、「蒙古龍来絵詞」は宮内庁に所蔵されており、模写された絵が拝殿に飾られています。



「龍神石灯籠」



「力士石灯籠」

参道の両脇には、江戸時代に奉納された珍しい石灯籠があります。向かって左側には石灯籠に乗る龍神、右側には石灯籠を担ぐ力士が安置されています。

霊台橋（れいだいきょう）

〔熊本県下益城郡（しもましきぐん）美里町（みさとまち）〕



霊台橋は、1847（弘化4）年に完成しました。

人をつなぎ、物資を渡し、地元の人々の生活を支えてきた日本最大級の単一アーチ式石橋です。緑川（みどりかわ）の最大難所の船津峡（ふなつきょう）にかけられたことから、「船津橋」ともよばれています。



道幅は、約5.5メートルです。



霊台橋のたもとには、「THE KEYSTONE GARDEN (ザ キーストン ガーデン)」というオシャレなカフェがあります。



窓から見える緑川。

くまもとさんぽ

<http://p.booklog.jp/book/89369>

著者：みーも

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/aruyu8kema3/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/89369>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/89369>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ